

巻 頭 言

今年度の話題は何と言っても新型コロナウイルス感染症（COVID-19, 中共ウイルス感染）の大流行（パンデミック）でした。11月9日の時点で国内では累計感染者数 108,505 人、死亡者数 1,823 人、新規感染者数 954 人となっている。世界では累計感染者数 5000 万人超で、死者数も 125 万人を超えました。

本学もこの影響で、授業開始が遅れ、前期期間中は全面的に原則オンライン授業、学生の入校も原則禁止となりました。教員もテレワークが中心となり、フィールドワークや学会活動等も対面は困難で Web 開催が主体となりました。このような状況は、他大学でも同様で、大学間連携もままならない状況です。

後期に入り、多少学生の入校も緩和されましたが（感染拡大対策が厳格にとられ、大学の許可を得たケースのみ）、やはり後期もオンライン授業が主体であり、対面授業は約 3 割で大きくは変化していません。このような状況下では、特に保健福祉学部では、人を対象とする研究が主体のため（学生、地域住民など）、多人数・集団を対象とする研究や実験が困難となりました。科研費研究や重点研究事業でも、倫理委員会申請や環境・機器整備（部品調達、機器開発）が遅延する状況です。

地方創生は近年久しく全国各地で叫ばれていますが、地方創生を担う人材育成・研究の拠点である本学のような地方大学でも研究への悪影響は避けられません。しかし、このような状況下でも ICT を活用するなど工夫をしてこの難局を克服してゆかねばなりません。

過去のパンデミックは、20 世紀以降 3 回あったことが記録されています。1918～19 年のスペインインフルエンザ（いわゆるスペインかぜ）、1957～58 年のアジアインフルエンザと 1968～69 年の香港インフルエンザです。スペインかぜの場合、現代のように抗生物質やワクチンがないので、感染対策は、隔離、行動制限、個人衛生、消毒、集会の中止で、現代の感染対策とあまり変わらない印象です。現代はウイルス感染後の細菌の二次感染による肺炎に対しては抗生物質が有効です。11月9日にファイザーとビオンテックが共同開発した新型コロナウイルス感染症ワクチンが治験で高い有効性（約 90%）を示したと発表され、パンデミック沈静化に期待されています。しかし、このワクチンの保管には超低温の温度管理が必要なため供給網構築のためには、さらに高いハードルがあります。また、現代はグローバル化が進んでおり、第 2 波、第 3 波、あるいは第 4 波以上も起こりえます。筆者は今回のパンデミックの沈静化には 2 年間は要すると推測しています。

本学保健福祉学部では、人々の健康と幸せを導く人材育成と研究・地域貢献活動を推進しています。今回の困難を克服し、研究成果が本誌「人間と科学」に投稿される事を期待しています。

本学のフライデイオベーションでは「医療従事者の皆さまへ ありがとう」の横断幕を掲げ、ライトアップもされました。私は、このオベーションは、医療従事者の人材育成に慈愛をもって推進している本学教職員へのエールでもあると確信しています。

県立広島大学 保健福祉学部
原 田 俊 英